

教育厚生委員会 県内調査活動状況

1 日 時 平成28年11月4日(金)

2 委員出席者(9名)

委員長 遠藤 浩
副委員長 浅川 力三
委員 前島 茂松 河西 敏郎 渡辺 淳也 久保田松幸
佐藤 茂樹 卯月 政人 土橋 亨

欠席委員 なし

地元議員 桜本 広樹(南アルプス市)

3 調査先及び調査内容

(1)【市川高等学校】

調査内容(主な質疑)

問) 先ほどの説明で、不登校者がいないということに驚いたが、他の公立高校の様子はどうか。

答) 高校教育での不登校は当然あるが、本日は手元に資料がないため人数は答えられない。しかし、各校、少なからず不登校を抱えている状況なので、市川高校は素晴らしいと感じている。

問) 市川高校では、どのような取り組みが不登校者ゼロにつながっているのか。また、どういう指導をしているのか。

答) 昨年、市川高校に赴任した時には、不登校者が5名いた。家庭の問題があったり、生徒の問題があったり原因はさまざまであるわけだが、原因を追及するのではなく、とにかく寄り添うことを第一として、家庭にも協力してもらいながら、子供たちの気持ちを理解していくという方針に変えた。現実に中学校からずっと不登校の子供がいたが、昨年の秋以降からしっかりと登校できるようになった。これについては一例だが、年子の兄弟がいて下の子に母親の気持ちがいってしまい、小さい頃にあまり愛情を受けていなかったことが分かった。そこで、本校に通っているその子と母親がアパートに住んで、小さいときからの赤ちゃん返りをして克服できたということもある。一緒に住んでいるお年寄りにはそういったことが理解できず、根性がないという話になっていたが、改善できることもあった。もう一つは、本校は、高校の中では4クラスと小さな学校なので、子供たちへ目が行き届くということも良かったかも知れない。そうはいても、志半ばで本校を去る子供もいる。全員がまっすぐ育つわけではないので、家庭との連携をとりながら、本人が一番勉強しやすい環境へつなげていくようにしている。

問) 難しい問題だが、是非取り組んでいていただきたい。それから、いじめはあるのか。

答) 今は生徒のスマホ等の利用が非常に多い。全校生徒450名のうち、スマホ等を持っていないのは、3年生が2名、2年生が2名、1年生が1名の5名しかいない。そういう中で、ツイッターやラインを使いながら、普段思ったことをつい口に出してしまう。それが原因で意思の疎通が出来ず誤解をすることも多い。スマホ等の取り扱いについては、警察とも連携をとりながら講習を受けさせている。誰でも簡単に持てる道具だが、使い方によっては人を傷つけるものなので、扱いには十分気を付けるようにと指導している。本校は、いじめの対策については、

いろいろな調査をして目を配りながら進めている。時として、部活動の中で行き過ぎた言動があったりすることも克服できるように注意しながらやっている。これは生徒と教師との関係もあるので、保護者と連携をとりながら進めている。

問) アクティブ・ラーニングについて伺いたい。全ての高校でアクティブ・ラーニングを導入していくということだが、現在、高校によってアクティブ・ラーニングの進捗に差があると思うが、導入が遅れている高校はあるのか。また、導入が遅れている高校があるとすれば、それに対する指導はどのようなことを行っているのか。

答) 高校教育課では各教科担当の指導主事が学校訪問し、各教科のアクティブ・ラーニングの進捗状況等については確認しながらサポートに努めている。特に遅れている学校も何校かある。大きな理由の一つとして、学力レベルの低い学校においては静かに行うという状況が作りやすく、むしろ教員が説明する一斉講義型の方が授業態度を保てるという声も届いている。一方で、進学高校では受験への対応から授業進度が遅くなってしまうので、アクティブ・ラーニングのような授業はなかなか取り組めないと聞いているが、推進協議会を立ち上げており、そこで、遅れている学校と進んでいる学校の教師が同じグループになってグループワークをしてもらい、実際にアクティブ・ラーニングを行っている学校の状況を知ってもらうことによって、少しずつ取り組んでいくという動きにつながっていると考えている。

問) 先ほど、2クラスの授業を見せてもらったが、習熟度に合わせてクラス分けしてさらに班分けをしているとのことだが、男女混合の班や男子だけ女子だけの班があったが、班分けはどうやっているのか。

答) グルーピングに対しては、指導教諭が生徒の理解度を確認しながら絶えず変えている。男子だけの時もあれば、男女混合の時もある。討議をしなければならないときには、いろいろなタイプの生徒がいた方が良く、深く考えさせるときには、同レベルの生徒にすることもある。今日見てもらった生徒たちは英語科の生徒と普通科の習熟の生徒であり、これを3クラスに分けている。英語科の生徒でも文系は強くても理系は弱いという生徒もいれば、数学の得点率が低い生徒は、ここで学び直しをしなければならないこともある。数学、英語、国語については、このような形がとりやすい。そうしないと、高校入試以降の差がありすぎることも当然ある。アクティブ・ラーニングは本校の学習形態でいくと、基礎学力がそれぞれ耐えられる生徒たちの集団である。ある程度レベルが上がっていく生徒にとっては、横の生徒と協調するよりは、自分で進みたいという生徒が多い学校もあるが、本校は、今のところ、お互いにうまくいっている。グルーピングが一番難しく、それを教師が絶えずうまい呼吸を持ちながら進路を進めながら、生徒の動向を見ながら、飽きていないか、理解力が深まるかなど目配りしていく、これが授業のポイントだと思う。

問) きめ細かいグルーピングを行い、教師の方たちも配慮しながら行っていることを理解して、現場の大変さを改めて実感した。それで、授業を見る中で、ある程度の基礎学力がある生徒たちがグルーピングによって分けられて、アクティブ・ラーニングで授業を行っているということだが、一方通行的な授業によって授業の習熟度を図るパターンに対して、グループの中で問題を解いて学力を向上させていく、アクティブ・ラーニングを行うことによって、果たして学力が向上しているのかどうか、新しい取り組みなので見えずらい部分が出てくると思うが、教育委員会としては、アクティブ・ラーニングを導入するに当たって、どのような学習の成果目標、指標を考えているのか。

答) 御指摘いただいた点は大きな課題である。現在、本課で推奨しているのは、ポートフォリオと言って、その時間に何を学んだかという記録をするペーパーを用意して、それを積み重ねてファイルしていくことである。それを振り返ると生徒自身が授業を受けた中で、どのように自分が変わっていくかを振り返ることが出来るし、教師自身も生徒一人一人の成長度というものを知ることができる。こういったことを教科に取り入れながら多様な評価に努めていきたい。

また、こういった学習形態でテスト的な問題に弱くてもやる意味がないので、テスト問題も現在求められている思考力を高めて表現力を計れる問題に変えながら、ペーパーによるテストなどにおいても学力がきちんと計れるような試験問題作成といった研究を進めながら、的確な評価に努め生徒の学力向上に努めていきたい。

問) 初めてアクティブ・ラーニングの授業を見させてもらった。苦手な科目だったので解説を見てもなかなか理解しにくかったが、教師も生徒にも定着しているというか、慣れているという感じがした。導入当初は戸惑ったり、グループワークに溶け込めなかった生徒もいるかと思うが、本格導入してからこれまでの状況を聞きたい。また、アクティブ・ラーニングへの生徒の習熟度はどうか。

答) アクティブ・ラーニングの実施については、職員の意識改革が一番難しかった。教師もこの道10年20年で、本校の教員の平均年齢は49.7才、もう50才近い人たちがばかりで、自分たちの教えることに対して自信がある。それが平成25年の中教審答申以降、非常に目まぐるしく変わり、それについて理解をしてもらう。また、実践された方の意見を聞く、自分が生徒となって実際の授業を体験するといったことを昨年度進めた。そういった中で教師たちに対しても、学年進行をとり、主に1年生に行われている。2、3年生については、理科や数学のやりやすい教科を進めている。地理、歴史、公民、国語は、難しい面もある。英語は習熟度に非常に差が出る教科なので難しい。そういった中で、意識を高めながら、昨年に職員とグループワークをして本年度実施している。生徒の状況について特徴的なのは、アクティブ・ラーニング型の授業にしてからロングホームルームや総合的な学習の時間で、自分の意見を話すとか自分たちが何かを考えるという問題解決するために何をしていけばいいのかという深い考え方に慣れ始めてきていることは確かである。教科に限らず物事を主体的に考えさせる意義としては教科を超えて動いている。実質的に学力については、それほど効果が進んでいるかということとは不明だが、定期試験への取り組みは生徒同士がお互いに学び合ったり教えあったりということでは出ているように見受けられる。

問) 新たな取り組みであり、教員の資質向上が不可欠だと思う。市川高校において特別に教員のスキルアップ、資質向上のために取り組まれるところがあったら具体的に教えてほしい。

答) この1年間の基礎学力の定着が非常に問題である。本校の生徒たちも、この分野は長けているのに、この分野は低いということがあり、欠けているところがいくつもある。これに対しては、ソフトバンク、ベネッセの両者が作ったClassi(クラッシー)という会社の、クラウドを使った教育コンテンツを利用する。ほとんどの生徒がスマホ等を持っているし、本校のタブレットも貸し出して、ICT教育の充実を図りながら、基礎学力を充実させていく。もう一つは、教員の多忙化について、ベネッセ等との連携をとりながら、例えば、本校では小テストで漢字や英単語のテストなどいろいろ行っており、誰が丸付けして、追指導するかということがある。そういったものをこの教育コンテンツを使いながら自分で進められる。生徒の生活習慣もとても大事で、家庭学習の時間を伸ばすのに日記を付けさせたりするが、このICTを使ってアプリで自分の状況を管理できる。部活や担任の教師などが生徒の動向を一目で見られるという教育コンテンツを来年度から取り入れていきたいと考えている。この説明を職員に説明したところで、来年度の2年生の中では、自分のクラスで行いたいと意識が強い教師もいる。今後はネットワーク環境等についても、充実していくと思う。今はクラウドを使い、スマホ等で行うのでそれほど負担はかからないと思っているが、タブレットや一人一台パソコンがいいのかという検証は、来年度に進めていきたい。



説明後、アクティブ・ラーニング型授業（数学）を視察し、その後、質疑を行った。

（２）【株式会社 桑郷】

調査内容（主な質疑等なし）



現地での説明後、視察を行った。

（３）【育精福祉センター】

調査内容（主な質疑）

問） 防犯・防災対策についての県の取り組みで、障害者施設職員を対象とした研修の開催という話を伺ったが、全体として実施するよりも、個々に実施することも施設管理のために必要と思う。育精福祉センターとして独自の取り組みが行われているのか。

答） 9月2日に、元育精福祉センター副所長である田ヶ谷 雅夫氏の協力を得て、講師として職員のための研修会を開催した。場所は、育精福祉センター内のホール棟を使用し、県内各地より102名の職員の参加があった。育精福祉センターが先導し、職員の研修会を行い、「福祉の心」と題して職員の研修会を行った。今後とも虐待防止の研修を重ねながら、職員一人一人の資質向上に努めていく。

答) 先ほど説明した意識啓発に関する研修会は、児童寮と成人寮が合同で行った。それ以外に、防災・防犯ということで、南アルプス消防本部の協力を得て、毎年9月に総合防災訓練を、利用者、入所者、職員合同で、通報訓練、避難訓練を中心に、避難経路の確保、実際に消火器を用いた消火訓練を行っている。それ以外に、来週になるが、南アルプス警察署と連携し、防犯研修会を行う予定である。これは、自分の身を守るための訓練とか、新たに整備したさすまたの訓練を含め予定している。

問) 相模原市の事件については、住まいから近い場所なので、人ごとではないが、こういったことは時間が経つと風化されてしまうこともあるので、定期的にこういった取り組みをしてもらいたい。

短期入所を受け入れているとのことだが、県内に短期入所の障害児を受け入れている施設がどの地域に何カ所あるのか。

答) 短期入所施設は各地域にあるが、手持ち資料にないため後ほど回答させていただく。
(施設視察の際に該当資料を配布し、概要を説明)

問) 7月に神奈川県で起きた障害者施設の事件を受けて、本県や施設の対応の説明をいただいたが、以前に厚生労働省において、事件の検証及び再発防止検討チームが結成されて、検討が進められていると伺ったが、現在の進捗状況やいつ頃までに国の方針が示されるのか教えてほしい。

答) 厚生労働省内に検討チームが結成され、既に7回の会合が開かれていると承知している。また、9月中旬に中間取りまとめが発表され、今回の事件の検証作業までは終わっているところである。

現在行われているのは再発防止策で、ハード面、ソフト面でどのような取り組みが必要か、また、施設の面だけでなく、措置入院患者の処遇に関する案件でもあったことから、措置解除後の取り扱いについてどうするか、再発防止策の枠組みの中で検討を進めていくと承知している。秋にうちに取りまとめ結果が公表されると聞いているので、まもなく最終の取りまとめの段階になってくると考えているが、まだ詳細については聞いていない。

問) 厚生労働省から対応を示された後もしっかりと対応していただきたい。

災害対策についてであるが、育精福祉センター内において、備蓄食料などの災害時対策はなされているのか。

答) 平成26年2月の大雪の際には、給食サービスが来なくて食糧の確保に苦労した。その前から食品の備蓄については、食品庫を設けて、災害時には速やかに入所者への食事の提供ができるようにしている。それ以外に、防災訓練等を実施する中で行っていることと、非常時に備えて火災報知器やAEDも設置している。いざというときに火災報知器を鳴らせば、電話をかけなくても消防署において即座にどこからのものか分かる仕組みになっており、安全面に配慮している。

問) 児童寮、成人寮含めて4棟あるが、夜間の管理体制はどうなっているのか。

答) 夜勤については、児童寮が2寮、成人寮が2寮あり、そのなかで男子棟、女子棟に分かれており、それぞれに1名、成人寮男子棟は2名、全9名が一番コアとなる時間帯、夜8時から翌朝7時頃まで夜勤態勢をとっている。一人になる時間をできるだけ短くすることが、安全面で大事なので、遅番、早番の時間帯をシフトする中で、遅番に1時間遅く帰ってもらう、早番に1時間早く出勤してもらうなど、弾力的な運用を行っている。

問) 通報システムは、4棟の中で各棟との職員間のやりとりや、4棟から独自にスマートフォン

等を持ちながら、直接、内部の異常を外部に通報できるようなシステムはできているのか。

答) 現時点では、夜勤の対応9名が非常用のトランシーバーを携帯するとともに、電話機を使って1回で全館放送できる体制をとっており、館内においては即座に応援態勢をとることになっている。

問) これから予算要求があると思うが、4つの棟の連絡体制、外部に対する通報システムの構築は、これから進めていかなければならないものなので、ぜひ予算要求していただきたい。



説明・質疑の後、児童寮・成人寮の視察を行った。

(4)【意見交換会】

出席者 市川高等学校英語科1年代表生徒

内容 「アクティブ・ラーニングの手法による研究の発表・意見交換」

主な意見

【第1グループ】

議員) アクティブ・ラーニングの授業形態が今年度から導入されたわけだが、実際に授業を受けてみてどのようなことを感じているのか。

出席者) 主に授業になるが、苦手な科目があり、それが市川高校に入学してアクティブ・ラーニングを通して友達と意見交換をしたり授業をすることで、分からなかった問題をすぐに聞くという環境や、お互いに教え合って、どこをどうしたらより良くなるのかをすぐに確かめたり質問したりする環境が整っていると感じた。また、お互いの意見が違ったりするので、相手の意見を聞くことで自分がその意見を通してどう考えていくことができるのかという新しい発見をすることもできたと思う。

議員) (発表のあった)株式会社桑郷の件で、まず現場に行くということが皆さんにとって新

しいフィールドワークではないかと思う。また、問題意識や課題といったことを皆さんが提言されて、非常に学びの多い経験をされたと思う。今朝のニュースで皆さんのインタビューが放映されていた。

普通の授業とアクティブ・ラーニングの違いという点で、先ほど数学の授業を見た際に、3人の生徒にどうですかと聞いたところ、「楽しい」という言葉が出たが、皆さんはどうか。

出席者) 私自身、数学はとても苦手意識があったが、苦手なことをすぐに聞くようになってから少しずつ数学が好きになったり、得意な分野がふえたりして、これからの自分に役立っていくと感じている。また、分からないところをそのままにしない癖もついたので、より数学に打ち込むという探究心がついて、こうしたら簡単にできるのではないかという新しい考え方も見つけて、苦手克服に努めている。

議員) 皆さんと相談し合いながら、一つの問題を解決していく過程も大事だから、ぜひ楽しんで、アクティブ・ラーニングをしてもらいたい。

もう一点、今年の夏に参議院選挙があった。まだ1年生だから少し先のことも知れないが、4人に一人が65歳以上という高齢化が進む中、高校生の意見を政治に反映させる参政権を作ったわけだが、県議会では6、9、12、2月の年に4回定例会を開催しており、県政を支える課題について議論を交わしている。議場には一般傍聴席があるので、ぜひ皆様には議事堂にきてもらい、傍聴してもらいたいと考えるがどうか。

出席者) 選挙の投票年齢が18歳に引き下がったことで、より身近に政治を感じる事ができたと思っている。実際に定例会を聞きに行けると言うことで、積極的にそういったものに参加して、自分が政治に関わる大切な一員であることを感じたいと思う。

議員) 今、発表してもらった研究テーマ、農業振興、耕作放棄地の活用について話を聞いたが、こういったテーマや、提言案を作るという流れもアクティブ・ラーニングの中で話し合ったと思うが、そのテーマの選定や進め方をみんなで話し合ってきた結果、よかったこと、苦労したことがあれば感想を聞きたい。

出席者) このプレゼンを作るに当たって苦労した点は、みんなの意見がバラバラでなかなか固定することが難しく苦戦した。よかったところは、みんなのバラバラな意見をまとめるという点はこれからの将来にもとても役に立つことだと思うし、このような機会を高校生活で受けられるという貴重な体験をさせてもらえたことである。

議員) 県議会は年に4回定例会を行うが、今年6月議会のことをまとめて県民の皆様配布している県議会だよりというものがあるが、これを見ていただいて率直な感想を聞かせてほしい。

出席者) この県議会だよりは初めて見たが...

議 員) 遠藤委員長から県議会だよりの話が出て、佐藤委員からも話があったとおり、年4回ある県議会の結果報告ということで作成して、新聞折り込みとか各地域に配布しているが、それに加えて、県立高校や図書館にも配布している。定例会の質問内容とかトピックスを取り上げて掲載している。皆さんは高校1年生ということで少し時間があるかも知れないが、もう間近にせまっていると思う。誕生日によっては選挙に参加する権利を得ることになるかもしれないので、この議会だよりを主権者教育の一環として高校生の皆さんにも興味を持ってもらいたいが、そういった点ではどうか。

出席者) こういった政治や行政について、高校生が興味を持っていかなければいけないということがある。高校には総合的な学習の時間があるので、そういったところでテーマにしていければいいかと思う。

議 員) 皆さんが、農業振興というテーマのまとめとして農業法人の会社という形を取ると長く続けられるのではないかとされ、また現在の農業従事者をふやすことは非常に難しいという認識を持たれている。そういう中で、これからさらにプロジェクトとして取り組んでほしいと思うが、なぜ会社組織にすると長く続けられるのかという点の分析をどの程度しているのか。また、今まで日本の農業は家族農業という継承の中で支えてきたが、現在の農業の状況は、家庭での親子の関係が別々な仕事に向かい、後継者がいなくなり高齢化している。その状態について、どういうところに原因があると捉えているかを簡単にいいので教えてほしい。

出席者) 例を挙げると、高齢化については、人は子供が少なくなると学校が廃校、閉校してしまうことがあるが、閉校するのではなくもっと充実させれば人は集まってくるのではないかと思う。人が少なくなったから減らしてしまうという考えを、人がふえるように考えていければいいと思う。

【第2グループ】

議 員) (発表されたものは)農政部の提言書類をはるかに上回った提言があったので感嘆している。研究テーマに「ジビエ」を採用した理由はなにか。皆さんと話し合っただけなのか、あるいは教員から提示されたのか。

出席者) このテーマは、教師が示してくれた中の一つであり、私たちがそれに興味を示し「ジビエ」について研究した。

議 員) 県内に解体処理施設が4施設しかないことは承知しているが、移動式解体車ということ提案するのは素晴らしい発想だと思う。どのようないきさつだったのか。

出席者) 県内に解体処理施設が4カ所しかないということで、せっかく獲物を捕っても、処理までの時間が定められていて、それに間に合わないことが事例として多く挙げられていた。移動式解体処理車というのは、車に解体処理施設を乗せて山梨県内をどこでも移動できる、非常に画期的なアイデアだと自分でも思う。その車の普及によってジビエというものが十分な供給が得られて、より多くの人にジビエを提供できると思う。

議員) 当委員会の副委員長がジビエに造詣が深く、そういった人もいるので参考にしてもらいたい。

議員) いくつかテーマがある中でジビエを選んだと思うが、アクティブ・ラーニングは自分たちで意見を出し合って方向性を決めていくということも多くしてきたと思うが、そのような中で、リーダー的な立場になる人がいたり、それを補佐する人がいたりと役割分担されたのか、それとも、それぞれみんな対等な立場でアクティブ・ラーニングを行っていたのか教えてほしい。

出席者) 今回はみんなが同じ立場で意見を出し合っていく形で行った。

議員) 今回のプレゼン資料の作成に費やした期間はどれくらいか。

出席者) 昨日、ジビエについてインタビューをして、その後に作成した。

議員) 調べはじめたのはいつからか。

出席者) 昨日の午前中である。

出席者) 10月18日に、ジビエについてテーマ設定し、そこで、資料を読み、ジビエとは何かという調べ物をして、インタビューで聞きたいことなどの整理を行った。昨日インタビューに行き、時間は無かったが、2時間でプレゼン資料を仕上げ発表会までを段取った。

議員) これを見て、二、三カ月かかったと思ったが、半月ほどでここまで資料を作成するということに対して、皆様の努力に大変驚いている。

今回の資料作成等について、アクティブ・ラーニングで行ってよかった点、あるいは集団で行うことで、意見の集約や結論の導き方で意見が分かれるなどの苦労した点は。

出席者) アクティブ・ラーニングをしてよかった点は、自分だけの意見ではなく、他の人に意見も聞くことができ、自分にはなかった発想とかそういう意見を聞きながら出来たことである。苦労した点は5、6人の意見を聞いてスライドをまとめるので、どのように意見をまとめていくかである。

議員) 皆さんの手元に県議会だよりが配られているが、今年7月に参議院選挙が行われて18

歳になった方には選挙権が付与された。4人に一人が65歳以上という高齢化の中で、若者世代の意見を政治に反映させる参政権を作ったわけだが、県議会では6、9、12、2月の年に4回定例会を開催している。配布した県議会だよりは6月定例会のまとめが載っている。その県議会だよりを見ながら、アクティブ・ラーニングを利用して、どのようなことが行われているのか、県政にはどういった課題があるのかを発掘してもらい、高校生の皆さんに是非議会を傍聴してほしいと思っているがどうか。

出席者) 機会があれば、ぜひ県議会を傍聴してみたいと思う。

議員) 皆さんが地域連携の中で選んだテーマは、今、山梨県で深刻な問題であり、人口が減少して、狩猟問題により大きな被害を受けていて、喫緊の課題になっている。その課題解決が容易ではなく、県議会でも毎回、この問題はどのようにいくんだと質疑が展開されている。皆さんがテーマ選定をされたと言うことは、皆さんの地域が抱える深刻なテーマだと思う。この解決策は容易ではない課題であるが、さらにこれを突き進めて、皆さんに研究してもらいアイデアを出してもらえればありがたいと思っている。これからはこの問題を引き続いて取り組んで行くのか担当教師に伺いたい。

出席者) 生徒の活動としては、ここで一旦きりにするが、機会を見ながら社会や政治について取り組めるようにしていきたい。



市川高等学校会議室において、意見交換会を実施した。